

研究プロジェクト	
題目	健康・医療・環境の融合による市民参加型コミュニティ農業プロジェクトに関する研究
著者	弦間 正彦

1.目的

環境保全型農業とその作業によって体を鍛えるアグリエクササイズを農作業プログラムとして構築し、50 名程度の被験者データを取得、健康影響評価を実施する。環境保全、健康影響、コミュニティ再生など、プログラムによって得られる社会的便益を検証し、農作業の多様な価値を創出することを目的とする。

2.研究・活動の方法

2-1 里山保全・利用→低環境負荷の作物栽培→加工体験を通じ、環境保全と健康への学びと繋げる一貫プログラム構築

(1)労働集約的作業を利用したコミュニティ・ファーム構築

機械化以前の農作業は、手作業中心の労働集約的作業であった。現在、NPO の管理する実験農場では、一度に 20 名程度が作業することにより、手作業の低い効率ながら、人数集約によって低環境負荷の農場維持を実現する。また、作業にかかる時間中、共同作業等で参加者のコミュニケーションを活発化し、地域コミュニティを構築されることも期待する。

(2)伝統的農機具使用

動力機械を使用せず、人力での作業を行うことで、運動量・体力の向上、心の癒しへと繋げる。

(3)里山のバイオマス利用

落ち葉かき：林床整備と落ち葉堆肥作り

下刈り：アズマネザサの下刈りによる林床環境整備・どんど焼きへの利用

コナラの落下種子の採取・育苗：植樹による里山の持続可能な利用の教育

2-2 農作業の運動強度の精度向上のため新型の活動量計を用いた計測

(1)月 2 回農作業と健康指導を実施し、健康増進効果の精度向上を図る。

(2)取得データ：歩数、消費カロリー等の 1 日あたりデータ

2-3 参加者への調査を通じて、農作業による環境保全への意欲、健康増進効果の経済価値を貨幣単位で推計

(1)地域の農場の持つ存在価値を貨幣単位で推計するための調査を行う。

(2)本庄地域のグリーン・ツーリズム協議会との協力により、都市市民 20 名程度の支払意志額調査を実施。

3.まとめ・考察

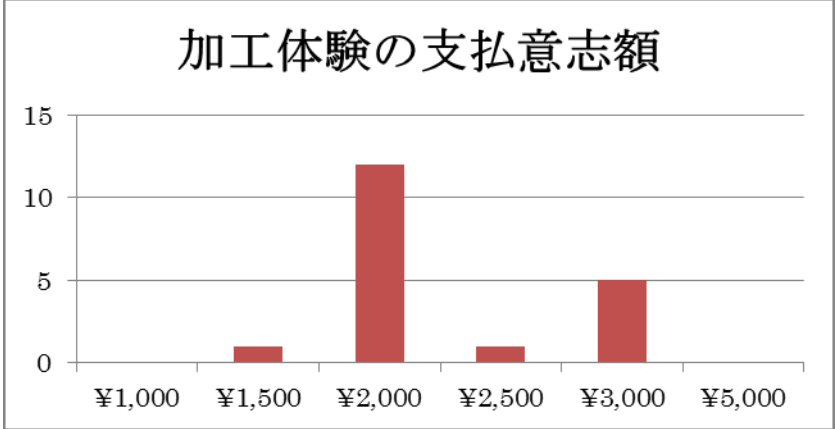
参加人数について毎回 20～30 名程度となり、順調に推移した。加工体験・農作業体験の支払意志額（交通費は除く）について、2000 円という金額が最頻値・中央値となっており、基準となることがわかった。

今後、参加者の属性分析、支払意志額との相関分析等を実施する予定である。

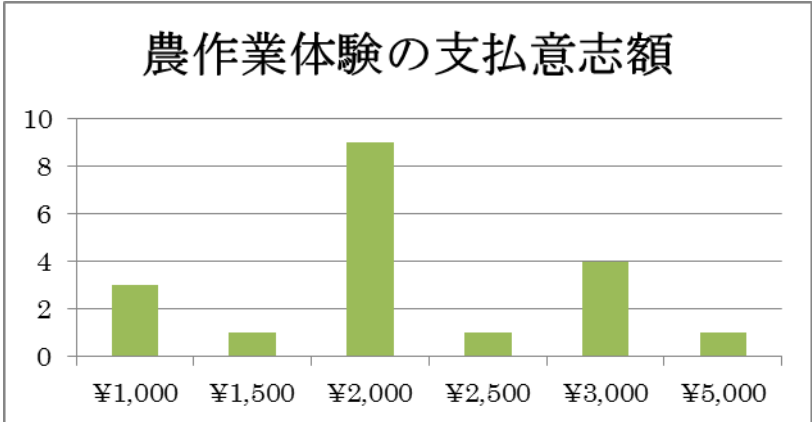
7 月 13 日(土): 田んぼ・圃場除草(八反転がし、あぜかき) 7 月 27 日(土): 除草作業・収穫作業(西瓜・ナス・トマト)		39 名
8 月 3 日(土): 収穫作業(西瓜・トマト・ナス・枝豆) 8 月 24 日(土): サツマイモツル返し・韃靼蕎麦種まき・収穫		34 名
12 月 7 日(土): 落ち葉かき・堆肥作り		44 名
12 月 14 日(土): 餅つき・そばづくり		

＜モニター・ツアーにおける支払意志額調査＞

回答者数：都市からのモニター・ツアー参加者 20 名



● 平均額:2263 円 中央値:2000 円 最頻値:2000 円



● 平均額:2211 円 中央値:2000 円 最頻値:2000 円